



## 自衛隊職場体験で仕事の意義を理解



自衛隊東京地方協力本部福生募集案内所（所長 武田 1 空尉）は、6月30日から7月2日までの3日間、あきる野市立あきる野西中学校の職場体験学習に協力した。

参加したのは2年生8名で1日目は立川駐屯地においてホイスト体験及び6人用天幕の設置体験を実施した。ホイスト体験では、要救助者役の生徒の安全を確保しながら器材操作を体験し、天幕設置体験では各人が役割分担して支柱を支えたりロープを張りながら協力し合って設置した。ホイスト体験や天幕設置体験を通じ、災害派遣での報道映像等で目にするヘリコプターでの救助活動等現地での隊員の行動が、日頃の訓練の上に成り立っている事や一つの事をを行う上でチームとしてお互いに協力し合う事の大事さを実感したようだった。

2日目は、立川駐屯地の管制塔を見学し、航空機が安全に離発着するために様々な業務を隊員が有機的に行っていることを確認するとともに消防隊の耐火服を試着して実際に隊員が装備する重量の一部を体感した。また、ヘリコプターのパイロットとの懇談では、職務に関する疑問や給料など隊員としての処遇について積極的に質問される等、和やかな雰囲気の中で、自衛隊という仕事に対する関心が高まったようだった。

その後、隣接する東立川駐屯地へ移動して偽装体験や3日目は方位磁石を用いた地図判読や測量体験を実施し、普段の生活では体験しないような事だがいざという時に使える知識を体験することにより、自衛隊を身近な存在として感じる事が出来たようだった。

参加者からは「3日間の職場体験を通じ、自衛隊に対するイメージが変わった」「ひとつの仕事を成し遂げるために多くの人が関わっているのを見て働くことの意義を学ぶことができた」等の声が聞かれた。

今回は、あきる野市に所在する学校が初めて自衛隊施設で実施する職場体験学習であったが、複数の部署で多くの隊員が係わり合いながら業務を行っている事を確認でき、また、自衛隊ならではの体験ができる魅力的な職場体験学習を提案できるよう福生募集案内所は今後も各学校関係者及び関係部隊等と連携を図っていくとしている。

## 公務員合同職業説明会を開催



職業説明 7月10日（玉川区民会館）  
自衛隊ブース「概要説明」



自衛隊広報展示コーナー 7月25日  
制服・迷彩試着コーナーでの記念撮影

自衛隊東京地方協力本部世田谷募集案内所（所長 山本 3 陸佐）は、7月10日と25日の2日間、玉川区民会館及び世田谷区民会館別館三茶しゅれなあとホールにおいて「公務員合同職業説明会」を実施した。

説明会には自衛隊のほか、法務省（入国警備官及び刑務官）、千葉県警察、警視庁、神奈川県警察、東京消防庁等の団体が参加し、事前のポスター掲示やSNSによる周知の結果、両日合計55名が参加した。

新型コロナウイルス感染症対策をとった会場では、各ブースでそれぞれの団体が工夫を凝らした職業説明を実施した。世田谷所は、自衛隊の概要説明に加え、「陸海空職種説明会」として、陸自の警務科職種や国際貢献活動、海自の心急工作や地上救難職種、空自の空中輸送員や気象観測員の業務等について説明した。また会場内に制服や迷彩服及び防災グッズを展示し、休憩時間には制服を試着して自衛官としての姿をイメージする参加者の姿も見られた。

説明会参加者からは「様々な職業について一度に詳しく聞くことができて大変参考になった」、「航空自衛隊の中に政府専用機での仕事や気象観測の仕事があることを初めて知った」、「新たな情報が得られ、今後の職業選択の幅が広がった」等の声を聞くことができた。

世田谷募集案内所は今後も各種説明会及び広報イベントを通じ、一人でも多くの方に自衛隊の魅力を知ってもらえるよう募集広報活動に邁進していくとしている。

## 百里基地を見学



自衛隊東京地方協力本部港出張所（所長 蘭 部 3 陸佐（当時））は7月16日、航空自衛隊百里基地において部隊見学を実施し、都内在住の大学生や高校生及び保護者等の20名が参加した。

当日は、第7航空団飛行群第3飛行隊所属のF2戦闘機の飛行訓練を見学したほか、消防小隊による破壊機救難消防車の能力展示や基地警備教導隊による不審者対処訓練を見学した。

参加者からは「勤務している隊員や装備品を近くで見ることができ、非常に参考になった」という声が聞かれる等、実際に基地を訪れて自衛官が勤務する姿等を確認することにより、自衛隊に対する理解を促すことができた。

港出張所では、新型コロナウイルスの影響により、就職説明会やイベント等の実施が困難な状況においても努力を惜しまず、あらゆる手段を講じて今後も活動を続けていくとしている。